

SHOW HEY シネマール

★★★

Data

監督・原案・脚本：二宮健
公式ホームページ、チラシの通り

THE LIMIT OF SLEEPING BEAUTY リミット・オブ・スリーピング ビューティ

2017年・日本映画
配給/アーク・フィルムズ・89分

2017 (平成29) 年 11 月 3 日鑑賞 シネ・リープル梅田

■■ひとことコメント■■

◆公式ホームページによれば、本作のイントロダクション、ストーリーは次の通りだ。

イントロダクション

映画界が大注目する若き才能が作り上げた作品は、かつて誰も見たことがないほど挑発的で衝撃的。

正に商業映画界に奇襲を仕掛ける作品が誕生した。

現実と妄想の目まぐるしい交錯を描く本作の脚本を手掛けたのも二宮健。緻密に構成された交錯劇が、否応もなく観るものを別世界へといざなう。

若干 25 歳の若手監督・二宮健は、中学時代から 40 本以上の自主映画を作りつづけ、『SLUM-POLIS』(15)、『MATSUMOTO TRIBE』(17)など、発表される作品が立て続けに注目を浴び、本作が満を持しての商業映画デビュー作となる。

過去と現在、現実と妄想。

観る者を縦横無尽の世界に引き込み、その視線をはずさせない力強い映像で綴るのは、人間の根源に迫る骨太のヒューマンドラマ。そして、オリジナル脚本と緻密な映像で見せる高揚感に満ちた世界観は、絶望の先に見える新世界を予感させる。

主人公オリアアキを演じるのは、桜井ユキ。石井岳龍、園子温、三池崇史といった日本の映画界が誇る鬼才監督の作品に立て続けに出演し、今後の待機作も控えるなか、今、最も勢いのある女優のひとりとして注目されている。本作で映画初主演を果たし、鮮烈な演技を披露。そして、オリアアキの恋人・カイトを演じるのは、女性たちの熱い視線を集める高橋一生。スタイリッシュな映像美の中で、ひとときわ優しい華を添える存在としての魅力を見せつける。また、『海辺のカフカ』(2014年、蜷川幸雄演出)での繊細な演技が記憶に新しい古畑新之。故蜷川幸雄演出の舞台に数多く出演している新川将人。第67回カンヌ国際映画祭のコンペティション部門に出品された『2つ目の窓』(監督/河瀬直美)で主演を務めた阿部純子。

ハイバイの舞台をはじめ、演劇界でも大注目の川面千晶。数多くの作品で名バイプレイヤーとして活躍する佐々木一平、信太昌之、木村知貴。ベテラン山谷初男らが脇を固め、更に、怪しいバーテンダーに成田凌、華麗なショー番組のMC役に満島真之介と今をときめく若手注目株の俳優陣が華を添えている。

STORY

主人公・オリアアキは、29歳の売れない女優。女優を夢見て上京し、ふと立ち寄ったバーでサーカス団を営むカイトに出会う。それから10年、毎日小さなサーカス団でマジシャンの助手をするアキ。30歳を目前にしたアキには仕事への熱も生きる目標もない。ルーチンワークのように繰り返されるのは、催眠術にかかるという演技。体を浮かされ、剣を刺され、催眠状態を演じているうちに、やがてアキの精神は徐々に摩耗し、いつしか現実と妄想の境界が破たんを迎えようとしていた。何故生きるのか？ 何を夢見たのか？ 何を目指すのか？ 唯一アキの中で美しい思い出として残るのは恋人・カイトとの時間……。自分が生きてきた人生の軌跡、アキが生きる現実と、叶えられなかった様々な妄想が入り乱れる。そして2つの世界の境界が壊れようとしたとき、アキの人生再生がはじまる……。？！

◆本作は、中学時代から40本以上の自主映画を作り続けてきたという25歳の二宮健監督の商業映画のデビュー作。そう聞き、興味を持って鑑賞した。しかし、その出来は、私には奇をてらっているとしか思えないので、イマイチ。

◆本作のテーマは、妄想と現実の間の混沌とした世界を描くものだが、ヒロインの若い女性とその分身ともいえるピエロとの、小難しそうな会話でストーリーを構成しているだけとしか私には思えない。

映像と音楽が本作の大きな特徴だが、それも私には奇をてらただけの感じで、イマイチ。

2017（平成29）年11月6日記